

石巻復興 NEWS

石巻専修大学 経営学部 丸岡ゼミ 平成 23 年 12 月 31 日発行 第 6 号

花月堂の被災状況と復興

花月堂は創業 50 年を超えており、現在では 2 代目が営業しています。花月堂は夫婦 2 人で切り盛りする和菓子屋です。和菓子はもちろん、若い人の口にも合うリーフパイもあります。その他にも茶まんじゅう、串団子、くずきり餅などのお菓子が品ぞろえ豊富にあります。

主力商品であるリーフパイは 1 個 130 円であり、とてもおいしそうに陳列されています。きれいな店内には、このお菓子に関する賞状や盾が展示されています。

そこで、私達（志賀、小久保）はリーフパイを食べてみました。味はサクサクとしていて甘さ控えめであり、よい甘みのクリームが軽い食感のパイ生地サンドされています。お好みで紅茶や、緑茶、コーヒーと合わせて食べてみると美味しいでしょう。

リーフパイの製法についてお店の方は「パイ生地のお菓子は多く存在しており、製法に関しては広く知られています。その為、オリジナリティを出しており、それを保つためにも教えることはできません。」と話して下さいました。これは花月堂ならではの伝統的なパイの味を守るためには必要なことであるとわかりました。

このリーフパイは、全国菓子博覧会に幾度も入賞した商品です。最近では 1998 年の「第 23 回全国菓子博覧会会長賞」を受賞しています。全国菓子博覧会は、だいたい 4 年に 1 度の頻度で開催されています。第 1 回目は明治 44 年 4 月 10 日に東京で「帝国菓子飴大品評大会」として始まった歴史ある大会です。

花月堂は、石巻専修大学の学生が 6 月 4 日に石巻市の東日本震災における復興計画に関するアンケート調査を行ったという縁のあるお店です。

このアンケート調査は、石巻市からの依頼で、実質的には石巻専修大学の学生ボランティアが行いました。主に個人商店や小売店などの商業施設が対象で、内容は復興計画の参考となる今後の石巻市の街づくりに関する要望や意見、今回の地震や津波によって被災した具体的な規模や金額をうかがったり、復旧・復興のためのアイデアの募集を行ったりしました。石巻駅を中心に調査が



花月堂のリーフパイ



行われ、多くの方々にご協力により沢山の回答を得ることが出来ました。この貴重な意見が石巻市での今後の復興計画に反映されることを願っています。

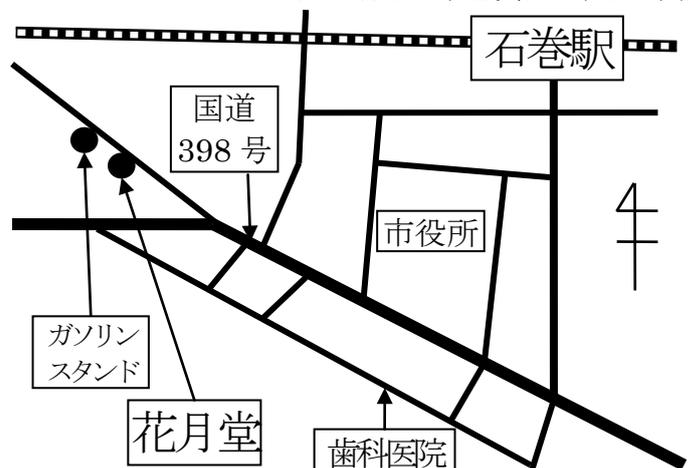
花月堂は既に今回の震災に負けずに営業を再開しています。改めて震災から半年経過した現在の様子を伺いました。

お店の方によると被災状況について、「お店兼自宅である、1 階の店舗は当時、地震と津波による浸水で (80cm 位)、ショーケースやお菓子を製造する機械が被害を受けました (200 万円程度の被害)。また、家全体としては外壁やドアの破損、窓ガラスが割れるなどの被害を受けて、大規模半壊の認定をされました。ちょうど隣のガソリンスタンドまで津波が押し寄せましたが、石巻市内では被害が少ない地域だったのではないのでしょうか。ライフラインも 1 ヶ月程で復旧しており、現在では生活する上で不便なく暮らせています。ありがたいです。」と話して下さいました。

震災から半年が経過していますが、街中の様子は他のお店等も再開してきており、段々と復興してきています。しかしながら、道路は凸凹が多く、車に乗っていても揺れが激しく、歩いても注意しないと転んでしまう危険性があります。お店の方も「お客様が安全にお店に来て頂くためにも、道路を早く直してもらいたいです。」と話して下さいました。

石巻市には、花月堂のように良き伝統のあるお店が沢山あります。再開がまだの所も、今回の地震・津波の怖さと共に、それを後世へ引き継ぐために、営業へ向けて、これからも頑張りたいと思います。そして、取材に協力していただき感謝させていただくとともに花月堂が繁盛することを願っています。

(小久保敬太、志賀洋太、水戸翼)



宮城県石巻市田道町 1-1-45。石巻駅から徒歩約 10 分。6 月 8 日再開。営業 9 時～17 時 30 分。日曜定休日。

石巻食と観光フォーラム in 東京

11月15日、石巻専修大学の栗山先生、清水先生、石原先生のゼミと石巻スコーパーズ、石巻信用金庫、石巻フィルムコミッションとわれわれ丸岡ゼミ学生が、東京の専修大学神田校舎でのイベントに参加しました。他に、大森先生とゼミ学生、石巻の料理関係者が銀座で「いしのまき井」の無料提供を行いました。新幹線でかけたこのキャラバン「石巻食と観光フォーラム in 東京」の石巻勢44人の目的は、観光と物産のPRです。

本学栗山規矩教授の挨拶で始まった神田の「石巻観光フォーラム」は三部構成でした。第一部は、震災前に石巻で撮影された映画「エクレール お菓子放浪記」の鑑賞会をしました。第二部では、「石巻における映画作り・震災・観光」という題で石巻専修大学、経営学部丸岡泰准教授の講演がありました。講演では、映画づくりの様子、震災の体験談、石巻の現状、そしてこれから石巻で可能な観光を紹介するという内容で行われました。

第三部は、石巻専修大学の経営学部の学生によるスコップ三味線の演奏が行われました。スコップ三味線とは、三味線の代わりにスコップを使い栓抜きで叩いて音を出し、音楽に合わせて演奏するというものです。石巻スコーパーズの熱演と、熱心な追っかけファンの熱い声援により、会場は盛り上がりました。

これら教室での催しに平行して、廊下では、学生による石巻の菓子店のお菓子紹介、試食、宮城県観光コース紹介等が行われました。同行した石巻信用金庫の地域貢献課の皆さんは、石巻産の水や名産のタラコ、笹かまぼこのPRのための試食会を行いました。

専修大学の学生部長の阿藤正道先生がご自身の石巻訪問の体験談をふまえた、おわりの挨拶をしてくださいました。教室や廊下の使用への便宜をはじめ、今回の催しは専修大学の協力なしには成り立たなかったものでした。校友の友情に感謝したいと思います。

当日、私たち丸岡ゼミの学生は、会場の受付でゼミで発行しているこの『石巻復興 NEWS』の配付をするのと同時に、来てくださったみなさんにアンケートをとりました。私たちが書いたこのミニコミ誌で現在の石巻の状況や復興してきている過程を首都圏に住んでいる人々にも知ってもらうことができたいい機会だったと思います。

(横山風太、久道溪)



「クマの手シューラスク」は鳩山元首相・元専修大学教授が好んだという石巻の味（専修大学神田校舎にて）

被災地の防災意識

私たち(末永、吉城)は、ゼミ活動で被災地である石巻市の大街道でボランティア活動についてのアンケート調査を行いました。

その途中、ある地域住民の小さな子の母親らしき女性が「あなたたちを通してたくさんの人に伝えてほしいことがある」と私たちに声をかけてきました。

この女性は今回の震災による津波を体験し、震災当日は避難所である大街道小学校へ避難していました。

しかし大街道小学校には毛布や食料などの備蓄物が満足に備わっておらず、そこに避難した人々は、3日間ほとんど何も食べずに、新聞紙を被って寝るという過酷な生活を送っていたということです。

女性は「大街道小学校は避難所に指定されているのに布団や食料など、災害時に必要と思われる物資が備蓄されていないのはまずいと思う。特に小さい子供やお年寄りなど体の弱い人にとってはとても厳しい環境だった。このような事があったので、最低でも子どもやお年寄りの分だけでも、数日分の物資を学校に備蓄しておいておくべきではないか？」と心配していました。

さらにこの女性は、震災後落ち着いてから、学校の近場の避難所を閉鎖した時に、大街道小学校の物資が不足していたのにもかかわらず、そこにあった余りの物資全てを別の避難所に指定されている運動公園に全て持っていかれてしまい、結局学校へ物資が補充されなかったという事を話してくれました。

女性は「学校の方にも備蓄してリスクの分散を図っては？」という内容を9月下旬に市役所に電話で連絡したのだが、一切返信や反応がなく、次に大きな地震が来た時のことを考えると非常に不安だと話していました。

このような避難所の備蓄品の不足や支援物資が必要とされている場所へしっかり補充されていない事実など、現地に行かなければ到底知りえなかった、住民の声を私たちは知ることができました。

それと同時に被災地の防災意識の高まりを感じ、避難のありかたを改め、それを市に伝えることで、市全体の防災意識を高められるのではないかと思います。

(末永寛二、吉城翔太郎)

◇11月23日石巻専修大学で開催された「エクレール・お菓子放浪記」無料上映会での感想より

「昨年の10月、日和山でのロケを見に行き、早く見たいと思っていました。3月初め、下旬に試写会があり、一般は4月頃かな、楽しみと思ってましたが、あの3.11…。今日、映画を見ることができてうれしかったです。「お菓子と娘」の歌も生で聞けまして、ビックリ。ありがとうございます。感謝します。」

(注) この日、映画主演の吉井一肇くんがサプライズで石巻専修大学5号館の舞台上に登場し、歌を披露。会場からのアンコールにも応えもう一度歌った。

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

E-mail senshu-maruoka@inter7.jp